

# 世界絶景 古城



世界の  
お城・宮殿

51

世界中に点在するロマンチックなお城や  
堅固な城塞、豪華絢爛な宮殿など、  
珠玉の51カ所を厳選しました。



# Buckingham Palace 02

## バッキンガム宮殿



ロンドンで最も有名な観光名所の一つであるバッキンガム宮殿。現在もイギリス王室の公式な住居であると共に、公務を執り行う場所でもある世界でも珍しい現役の宮殿だ。



バッキンガム宮殿全景。手前には美しい庭が広がっている。



### ~INFORMATION~

#### ◆アクセス

地下鉄ヴィクトリア駅、セント・ジ  
ェームズ・パーク駅、ハイド・パー  
ク駅から徒歩約10分。

#### ◆営業時間

(内部見学は夏季のみ可能)

7月25日～8月31日 → 9:30～19:30

9月1日～9月27日 → 9:30～18:30

上／宮殿前にあるヴィクトリア女王記念碑。下／宮殿の門には、イングランドを象徴するライオンと、スコットランドを象徴するユニコーンがあしらわれたイギリスの国章がある。



上／「ベアスキン」と呼ばれる独特の帽子をかぶり、行進する近衛歩兵部隊(写真：maziarz / Shutterstock.com)。下左／市街地とバッキンガム宮殿をつなぐアドミラルティ・アーチ。下右／威厳を感じさせる宮殿の門。

ロンドンの中心に位置するバッキンガム宮殿は、イギリス王室の住居であると共に、王室の記念式典や祝賀会などが行われる王室庁本部でもある。その始まりは1703年、バッキンガム公爵ジョン・シェフィールドが自らの邸宅用に購入した桑畑に建てたれんが造りの邸宅、「バッキンガム・ハウス」だといわれている。

1761年には、ジョージ3世が王妃と子ども達のために譲り受けて王室が使うこととなり、その後、ジョージ4世に引き継がれてからは、建築家ジョン・ナツシュが全面改装に着手。ルネサンス様式だった建物を新古典主義様式に改装し、これを期にバッキンガム宮殿と呼ばれるようになった。

イギリス王室の公式の宮殿として使われるようになったのは、1837年。ヴィクトリア女王



### ~RECOMMEND~

バッキンガム宮殿のすぐ側にあるセント・ジェームズ公園は、ロンドンの公園のなかでも最も古い歴史を持つ。公園の中心にあるセント・ジェームズ湖にいる名物のペリカンは、1664年にロシア大使から贈呈されたつがい起源だといふ。手入れの行き届いた公園には季節の花が咲き、ロンドンの中心にいることを忘れてしまうような自然が広がっている。



上/セント・ジェームズ公園とペリカン。下/バッキンガム宮殿全景。手前には芝の庭園が広がっている。

が即位した際に、セント・ジェームズ宮殿から移り住んで以降、現在に至るまでロンドンの公邸として使用されている。

約1万坪という広大な敷地内には、舞踏会場、音楽室、美術館、図書館などが備えられており、部屋の総数は775に及ぶ。また、宮殿に勤務する人は約450人、年間の招待客は4万人にも上るといふ。近年は、女王がスコットランドで過ごす夏の2カ月間を利用して、広間を一般に公開している。

なお、イギリスの名物で重要な観光イベントでもある衛兵交代式は、毎年4〜7月までは毎日1回、ほかの月は2日に1回、午前11時30分(日曜日のみ10時)から行われている。近衛歩兵部隊の正装は赤い上着に「ベアスキン」と呼ばれるクマの毛皮の帽子で、鼓笛隊の演奏に合わせて行なう一糸乱れぬ行進は必見だ。



# Schönbrunn Palace 16

## シェーンブルン宮殿



オーストリアの首都ウィーン郊外、ウィーンの森に接して建つ宮殿。名門ハプスブルク家の栄華を今に伝えるバロック様式の宮殿で、1996年に世界遺産に登録された。



シェーンブルン宮殿全景(写真：canadastock / Shutterstock.com)。

ウィーン近郊に建つシェーンブルン宮殿。かつてハプスブルク家の獵場であったこの地に、宮殿の建設が始まったのは1693年のことで、「ヴェルサイユを凌ぐ宮殿を」というレオポルト1世の命により着工され、1713年に完成した。その後も改築や増築が繰り返され、ウィーン風ロココ様式の宮殿へとその姿を変え、今に至っている。当初はピンクだった外壁を、シェーンブルン宮殿の代名詞ともいえる黄色に塗り替えたのは、ハプスブルク家唯一の女帝で最大の権力を誇ったマリア・テレジア。1740年に23歳の若さで即位すると、際立った政治手腕で帝国に繁栄と安定をもたらした。この宮殿を住居と決めた彼女は、財政状況に配慮して金に近い黄色で外壁を塗ったといい、今ではこの色が「テレジア・イエロー」と称されている。



宮殿と向かい合うように建つ未完の記念碑、グロリエッテ。



~INFORMATION~

◆アクセス

ウィーン・カールスプラット駅からシェーンブルン駅まで列車で約15分、駅から徒歩約5分。

◆営業時間

4~6月、9~10月 → 8:30~17:30

7~8月 → 8:30~18:30

11月~3月 → 8:30~17:00

左/かつて舞踏会が開かれていた大広間。右/ヨーロッパ最大規模の温室、パルメン・ハウス。



# Alcázar of Segovia 02

## セゴビアのアルカサル



セゴビアは、スペイン北部のカスティーリャ・イ・レオン州の街。旧市街の外れに建つアルカサルは、1985年に「セゴビア旧市街とローマ水道橋」の一部として、世界遺産に登録された。



ライトアップされた夜のセゴビアのアルカサル。

マドリード北西約90キロのグアダラマ山脈の麓に位置するセゴビア。その旧市街北端、エレマス川とクラモレス川に挟まれた高さ約100メートルの断崖上に築かれたアルカサルは、レコンキスタ(国土回復運動)時代に建造された歴代カステイリヤ王の居城であり、重要な軍事拠点としての役割も担っていた。城の起源は、古代ローマ時代に築かれた要塞。優れた立地条件からとりでとして使用され、12〜13世紀にかけて現在のゴシック様式の建物が完成した。この気品ある姿から「カテドラルの貴婦人」とも称されている。

1862年に火事で大きな被害を受けたが、1882年に修復。以前は軍事拠点のイメージが強かったが、1898年に軍事資料館として公開され、1951年にはアルカサル財団が設立、その歴史的価値が見直された。



ディズニー映画「白雪姫」に登場する城のモデルとしても有名。



~INFORMATION~

◆アクセス

マドリード・アトーチャ駅から列車で約2時間、またはマドリード・プリンシペ・ピオ駅前からバスで約1時間20分。

◆営業時間

4月~9月 → 10:00~19:00  
10月~3月 → 10:00~18:00  
(10月の金、土は~19:00)

左/城にはいくつも尖塔が並ぶ。右/現在、城内は博物館となっている。



# Pena National Palace 04

## ペーナ宮殿



ポルトガル中西部の都市シントラに建つペーナ宮殿。19世紀ロマン主義を代表する建築物であり、1995年に「シントラの文化的景観」の一部として世界遺産に登録された。



カラフルな外壁やそれぞれ異なる建築様式が、不思議な調和を生み出している。

\*16世紀始めに生まれたポルトガルの建築様式。ゴシック様式の影響を受け、大航海時代の繁栄を思わせる、過剰なまでの装飾が特徴。

首都リスボンに隣接するシントラは、ムーア人が築いた城跡やポルトガル王室の離宮など、さまざまな年代の建物が集まる美しい街で、イギリスの詩人バイロンが「エデンの園」と称したことでも知られる。この街を見下ろす岩山の頂にそびえるのが、ペーナ宮殿だ。ゴシック様式、\*マヌエル様式、ルネサンス様式といった複数の建築様式が混在し、19世紀ロマン主義を象徴する建築物として知られる。

ペーナ宮殿が建てられたのは1836年のこと。ポルトガル王フェルナンド2世がシントラの山頂に残る修道院の廃墟を買い取り、夏の離宮として建設を始めた。王はロマン主義的嗜好を持っていたとされ、異国の木々を集めたイギリス式庭園や、パステルカラーの外壁、トロンプ・ルイユ(騙し絵)が施された壁などにその趣向が感じ取れる。



空間を四角く切り取ったような中庭(写真: Sean Pavone / Shutterstock.com)。



### ~INFORMATION~

#### ◆アクセス

リスボンからシントラまで列車で約40分、駅からバスで約30分。

#### ◆営業時間

通年 → 9:45~19:00

左/色鮮やかな外壁が目にも楽しい。右/海にまつわるモチーフが多いのもマヌエル様式の特徴だ。

# 世界絶景古城

THE WORLD BEAUTIFUL OLD CASTLE

---

2015年11月10日 version1.0発行

ISBN978-4-902896-14-5

著作 株式会社 エディング  
編集 小島優貴・谷伸子  
デザイン 小島優貴  
写真 Shutterstock

発行人 武井誠

発行 株式会社 エディング  
〒162-0811 東京都新宿区水道町2-14 柴木ビル2F

【お問い合わせ】 [eding@eding.co.jp](mailto:eding@eding.co.jp)

©Eding Corporation 2015

本書の無断転載、複製、頒布、公衆送信、翻訳、翻案等を禁じます。  
一部または全部をアナログ化することは、個人や家庭内の利用でも著作権法により認められておりません。

エディングの書籍についての新刊情報・詳細情報は、以下をご覧ください。

<http://www.eding.co.jp/>